



会長	紺野 広	青少年奉仕	夏川戸 齊
副会長	橋本 昭一	幹事	松本 剛典
クラブ奉仕		会計	妻神 和憲
会長エレクト	橋本八右衛門	会場監督	佐々木泰宏
職業奉仕	道尻 誠助	直前会長	小林 幹夫
社会奉仕	岡崎 孝文	副幹事	小田山紀暢
国際奉仕	鶴飼 寿栄	会計補佐	小井田和哉

例会日	毎週水曜日 12:30	例会場	八戸グランドホテル
事務所	八戸市番町14		八戸グランドホテル内
	電話 (43) 0608	FAX	(43) 0661
	e-mail rc8@vc.hi-net.ne.jp		
	http://hachinohe-rotary.org/		
会報・広報委員長	峯 正一	同副委員長	上村 奉樹
同委員	妻神 和憲	同委員	野村 一雄

国際ロータリーのテーマ — 2023~24 — 八戸ロータリークラブのテーマ

世界に希望を生み出そう

和而不同 (わじふどう)

国際ロータリー会長 ゴードン R.マッキナリー

八戸ロータリークラブ会長 紺野 広

## 1月 は 職 業 奉 仕 月 間 で す

第3300回例会 2024.1.24

▶ ビジター 大館一法様 (八戸東RC)

### 会長要件 紺野 広 会長



最近あまりメーキャップに行っていないですが、ぜひ他の例会にも顔を出して、他クラブが何をやっているかをみたいと思います。

ガバナーノミニニー・デジグネット推挙決定についての文書が来ています。2026-27年度ガバナーとして弘前西ロータリークラブ成田俊介さん(弘前駅前整形外科クリニック院長)、クラブ会長、幹事、地区幹事長、ロータリー財団委員長を歴任されました。わたしはポリオ活動で一緒しました。今はパキスタンに活動拠点が移っていますが、ポリオでもご活躍され、ロータリーの理念を実践されています。個人的には岩手医大の先輩ですので、時々お話しさせていただいておりました。ひじょうに良い方が3年後のガバナーになりました。実効性のある活動をされると期待しています。

寺下一之さんの義理のお母さんが亡くなら

れました。当院副院長の奥さんのお母さんです。今日、火葬、葬儀です。喪主がクラブ会員であった場合はクラブからは弔慰金をお送りすることになっておりますので、規定に則った対応をさせていただくことになりました。

### 幹事報告 松本 剛典 幹事



来週の例会は八戸市との大規模災害時における相談業務の支援協力に関する協定の締結式になっております。スケジュールは通常の例会とじゃっかん変更になります。もしかしたら少し遅れる可能性もありますので、その辺をご了承ください。

事務局から皆さまにご案内を差し上げていると思いますが、2月4日(日)八戸市競技カルタ小中学生大会のお手伝いのお願いをしております。例年15名~20名のお手伝いをいただいております。重いふすまの移動などのお仕事がありますので、何とか都合のつく方はお手伝いをよろしくお願ひします。

来週の例会の会場はグランドホテルです。

## 委員会報告

親睦・会場委員会 栗谷川敏彦委員

○ニコニコボックスの報告

・誕生祝 佐々木泰宏さん  
橋本八右衛門さん 「わんちゃん」まだまだ  
あります！

夏川戸 齊・小井田和哉・山村和芳 } ニコニコ  
岡崎孝文・増田 敏・熊谷清一さん } デー

災害時対応時に関するスピーチ



・永澤 信さん：わたし共は  
損害保険会社ということで、  
損害会社としてどのような対  
応をしているのかを少しだけ  
ご紹介させていただきます。

1月1日の16時10分、能登半島で地震が起きました。その日のうちに東京で対策本部が立ち上がり、1月4日から全国から現地に社員を派遣しています。現在は300名派遣しております。現地の社員も家が損壊したなど、現地で動けない方がいらっしゃるの、基本的にはお客様の対応は全国からきた社員が行っています。今は300名ということですが、本日現在、何か被害があったというご連絡は11,000件ほど頂戴しております。正直もっと多いのかと思ったところですが、現在11,000件。ただ能登半島の端のほうは、今も生活自体どうするのかということなので、保険云々でまだ連絡ができていないのかなと思っております。

その中で今、立合人をやっています。現地に入って場所は新潟、富山、高岡、金沢、福井にサテライトオフィスを設置して、そこから立会人を一生懸命やらせていただいております。立会人は何をやるのかということ、お客様のところをお電話して訪問して、住宅では柱と屋根と壁と基礎の4か所を判定させていただきます。

わたしも何度も立ち合いに行ったことがありますが、修理代にいくら払えるの？と言わ

れるお客様がいらっしゃいますが、実は地震保険で建物2,000万円ではMAX1,000万円までです。お支払いされる保険金は1,000万円のご契約では100%か60%か30%か5%と決まっています。要はお見舞金的な位置づけです。なので、地震保険に入っていれば全て修理できるかということ、実はそうではありませんので、そこはご注意くださいと立ち合いの時にご説明しながらやっているところです。11,000件いただき、現在立ち合い数は約60%の約6,600件です。お支払いのほうは3,000件と約3割の対応は終わっています。

現地の社員が戻ってきて、青森からも2名ほど行かせていただきました。戻ってきて聞くのはやはり普段保険会社で営業していますが、実際に現地に行って被害を見て、立ち合いをして、やりがいを感じると共にけっこう悲惨な状況で気持ちが萎えます。ただただ雪の中をわざわざ来てくれてありがとうということで、被災地の皆さんに励まされている。東京のメンバーも結構行くので、雪の歩き方に慣れていない。それで2、3名が転んで骨折をしたなどの状況です。

やはり何かあったときに、入っている保険がこんな内容だったっけということが結構あります。皆さまがご加入されている保険の内容を平時から確認しておくのが良いのかなということと共に、住宅の立会人は95%、企業の皆さんの立会人は5%しかやっていません。何を言いたいかといいますと、企業様が持っている建物、工場に地震保険が掛けられないと思っている企業経営者の方もまだまだいらっしゃる、加入率は15%くらいです。その辺を災害のためにご検討いただくほうがよろしいのかなと思います。ご相談いただければ、どうやったらコスト削減ができるかをご提案差し上げたいと思っておりますので、引き続きよろしく願いいたします。



・松林拓司さん：東奥日報社の松林です。本来なら地元紙のデーリー東北の上村さんがお話するところですが、きょうはいらっしゃらないの

で、新聞代表でお話しさせていただきます。

3日の東奥日報です。結局2日が新聞休刊日ということで、1日遅れの3日になりました。新聞の場合は現場、ライフライン、役所、医療、福祉が動いていく中で、われわれがそれがどうなっているのかを一步引いた形で取材し報道する立場になります。県内の場合は今回は津波ということになりましたので、該当する日本海側の鮎ヶ沢、深浦、津軽支局、五所川原市局の記者が現場に行って取材し記事になっています。三面の左方に「深浦で津波30cm」ということで写真と現地の声を載せています。今回は現場といえばその程度でした。記事の中ではそういう形で小さい記事でした。

ご存じの通り、ほとんどの記事は共同通信の配信になっています。デーリーさんもまったく同じです。ご存じの方も多いと思いますが、共同通信は基本、戦後全国の県紙、東奥日報社、南日本新聞、中国新聞など全国の県紙と呼ばれる地方紙が声をかけて出資して作ったのが共同通信です。共同通信は今では世界の共同通信になってしまっていて、何か上下関係が逆転していますが、成り立ちがそういう形になっていますので、今でも毎月全国の新聞社の社長が東京の共同通信に集まって会議をしているという形にはなっています。

今回の場合は、石川には北国新聞という県紙がありますが、そこの中に共同通信の支局が入っていて、そこを拠点に取材に出ています。ちなみに青森県の場合は青森の東奥日報の中に共同通信の支局が入っています。青森の局長から聞いた話によると、当初は金沢から輪島まで通常2時間のところを片道5時間くらいかかって取材に出かけた。ということがわかった時点で初動を午前4時にして向かって10時から取材を開始して、2、3時に切り上げて戻ってこないと記事が送れない状況だったということを知っています。今は少し改善されたかと思っています。

そういう意味では今の地震に関してのわれわれの報道という意味では、共同通信からの配信を的確に伝えていく。まさに現場だった

東日本大震災のときはどうだったかをお話したいと思います。

新聞発行のときには輪転機を回さなければいけないのですが、ものすごい電力を使います。そのために、今はさらに新聞もコンピュータ制作ですので、さらに電気は欠かせないので、工場の輪転機のラインは火力発電所2系統から電気を入れています。1つの発電所が落ちて、もう一つから電気が来るといようなことをしています。東日本大震災のときは当然、全停電でした。青森市はだいたい20時間停電が続きましたので、うちの場合はそういうことに備えて輪転機を回せるくらいの巨大な非常用自家発電を備えていました。

なぜそれを備えていたかという、リング台風と呼ばれた1991年の台風19号の教訓があったからです。当時は夕刊を出していましたが、午前の台風で停電が起きて夕刊が発行できないという危機に陥りました。その時に輪転機を回せる電力を持っていないということに幹部が気づきました。その時には幸いに夕方には電気が通ったので新聞を制作し、夜遅くにはなりましたが夕刊は発行できました。その教訓から非常用自家発電を入れて備えていたことが役立ちました。

東日本大震災の時は24ページの予定だったものを急遽広告も全部外して16ページの紙面にして、20数万部刷りました。そして予定通り朝方には各販売店にトラックで届け、早朝に配達することができました。結局電話も不通で、販売店側も新聞が届くかまったくわからない状態で、特に県南地方はそうでした。それでも販売店がスタンバイしてくれて無事に届けることができました。八戸では当然避難所にも無料で配布してひじょうに喜ばれました。けっきょく情報がまったくないような、ひじょうに断片的な情報がないときに情報が載った新聞が届いたということで、東奥日報の力を少しそこではお伝えできたのかと思っています。実際に避難所で東奥日報の新聞を読んだ子がその後、東奥日報の試験を受けて入って、活躍しているというエピソードもあります。デーリー東北さんは岩手日日さんで

少し刷ったと聞いています。

実際に当日は新聞を制作するコンピュータは非常用自家発電で動いていたのですが、夜の8時頃に突然非常用自家発電が止まってしまって、UPSという10分しか持たない無停電電源装置というバックアップする装置で何とか非常用自家発電が回復するまでにそれを回復しないと、新聞が製作できなくなるという状態になりました。その時には機器サーバーだけを活かすために、他のいろんな機器をどんどん落としていって、サーバーを活かすことをやりました。それも年に2、3回そういう訓練を常にやっていたことが役立ちました。本来1時間かかる作業を何とか短時間で済ますことができました。

その非常用自家発電がなぜ止まってしまったかということ、巨大な非常用自家発電ですので、空冷式ではなく水冷式、水を循環させて冷やすというものでした。しかも底で水漏れを起こして水が無くなってしまったので加熱して止まったということがその日に分かって、急遽人海戦術で水をタンクに入れて、一方で、底の方の腐食したパイプを充填で回復させたという形です。本来、年1回きちんと試験運転をしているのですが、試験運転は新聞の休刊日に15分だけやっていたらしいのですが、けっきょく15分だけ回している間は水が循環して送られていくので、その水漏れに気づかなかった。それを反省して、それ以降は長時間運転を常にやって確かめることを行っています。

盛岡市に本社のある県紙の岩手日報社はこの時に新聞製作システムがダウンしてしまって、新聞が作れない状態になりました。わが社と災害協定を結んでいましたので、社長からSOSが来て受け入れることを決めて、車2台に7人乗って岩手を出発して、夜の11時くらいに当社に着きました。わが社の新聞を刷り終わった後、4ページの岩手日報を作って10数万部印刷し、また車に積んで盛岡に戻って、夜配達したという形です。作業を終わってこちらを出発したのは朝の7時でした。

結局、われわれは新聞には号数が書いてあ

りますが、わが社が1888年135年経っているわけです。今日の新聞は47622号。デーリーさんは戦後の発刊で約70数年で確か27000号くらいの紙面だと思います。この紙面を途切れさせないで皆さんにニュースを届けるのが新聞の使命ということで、そのような取り組みをしてきたところです。

それを活かして災害対策要綱を作りました。今、当然、身の安全確保、電源の確保（支社にも簡易的な自家発電があります）、それから通信手段の確保（衛星携帯電話も備えています）。立派なマニュアルを作って、読んでもなかなか身に入っていないということで、他社の新聞社の先進事例を参考にして、今、八戸や三沢でやろうとしているのは、アンケート形式で社員にこういった場合にどうするのかということをお願いすることで自分事にして欲しいと考えています。

例えば津波注意報や警報が出た場合に本人や家族はどこに避難するのか。夜間のときも同じなのか。安全確保できる取材ポイントはどこなのか。高台からの撮影ポイントはどこなのか。取材先で津波に遭遇した場合に安否確認を連絡するところを決めているかなどをアンケートの形にしてそれぞれで考え、情報共有して支社、支局の備えにしたいと考えています。本社からも携帯で安否確認メールが来て、それを年に2、3回テストして実行に移しています。

1995年1月17日の阪神淡路大震災のときは、近畿青森県人会があり、青森県とのつながりを大事にする県人会の方を訪ねて震災発生から1か月後に社会部デスクとカメラマン、女性記者2人が1週間ほど入って、その県人を訪ねてその関係者の被災状況、復興状況、様子を取材した経緯があります。地元からよく来てくれたとひじょうに喜んでいただいたし、逆に励まされたと当時のエピソードを聞いています。

そのうちの女性記者の一人はこれはひじょうに思い出深い取材だったので、プライベートでもう一度行きたいと、自分の休みに一人で取材させていただいたところを訪ねた。そ

の息子さんが市役所の職員だったようで、またそこでいろいろな話を聞いていてといううちに、どうやら見初められてそこに嫁いでいったエピソードもあります。われわれは人と会うのが仕事です。そういったこともあったのかと思います。

震災に関してはわれわれもいつ起こるかわからない。それもかなりの確率で太平洋沖で地震があると言われていていますので、それにしっかり備えていきたいと思っています。

**ロータリーの友委員会 小田山紀暢委員長**  
次回例会で紹介します。1月号は地区大会を概略で築館ガバナーとさかな君、ロータ君の写真が載っていますのであとでご覧ください。

#### インターアクト委員会担当例会

**正部家淳司委員長**



先日行われましたインターアクト年次大会に参加した様子を報告します。昨年11月12日に三本木農業恵拓高校で開催されました。午前中は体育館で地区内22の高校のインターアクターが集まってボランティア活動を発表し合うと共に、全体での集合写真撮影など参加者同士の親睦と友情を深めました。

昼休憩をはさんで、午後は会場を2つに分け、ミニきみ殻草履作り体験とうどん製造体験をしました。ちなみに八戸ロータリークラブがスポンサーしている八戸工大第二高校の生徒さんは残念ながら学校行事の都合で参加

できませんでした。

ロータ君が一人寂しくしているときに、三本木農業恵拓高校の生徒さんの段取りがよく、10時登録受付、10時半開始だったのですが、9:10にはこの状態でした。生徒さんが前日まで体調が悪かったようで、動きがすぐれないようでした。

生徒さんがボランティア活動の発表時に松山インターアクト地区委員長の写真がちゃんと撮れていませんでした。壇上では生徒が顧問の先生の指導を受け、パワーポイントを使って発表しました。ミニきみ殻草履作り体験コーナーでは、家畜のえさに使うデントコーンというトウモロコシの皮の部分が今まで無駄に使われてきたので、それをなんとか活用できないかということで地元の婦人会の方が考案したものだそうです。きみ殻にカラフルな鼻緒を付けて作ります。

うどん製造体験コーナーはちょっと離れた場所でしたが、訪問時は休憩中だったのかほとんど動きのない状態のところでした。ミニきみ殻草履はすごく難しいらしく、婦人会の方が丁寧に教えていました。何とかキーホルダーサイズのものことができました。参加生徒と婦人会の方が集合写真を撮りました。その後、会場を体育館に移して感想の発表がありました。

昼休憩に他のロータリークラブのインターアクト担当の方とお話しましたが、日頃学校の先生とまめに連絡したり、コミュニケーションを取れていれば、普段の活動もかなり活発にできるのかなと思いました。そういう部分の反省も含めて、次年度取り組んでいきたいと思いました。

#### 中心街今昔物語



きょうは中心街の昭和ノスタルジー、昭和時代の今は昔ということで写真紹介とお話します。

・はちのへ遊園地：住所は糠塚、稲荷町でもなく長根でもありません。昭

**前原俊彦さん**

和40年くらいの写真です。観覧車のあるところ。本当の猿を乗せていました。

・八戸駅：今のJR本八戸駅ですが、昔は八戸駅といいました。今の八戸駅は尻内と言っていました。八戸駅の開かずの踏切です。C56。

・駅前通り：わたしの同級生がたくさんいます。小林クリーニング店、田名部せんべい店、上野写真館。孔雀荘という旅館がありました。現在はバイパスができました。

・八戸市庁：八戸はなぜ市役所と言わず、市庁に行ってくるといいます。

・番町：八鶴さん、熊谷靴店、名久井電気店、三好堂、呉竹菓子舗など。角にタンタン。タンタンは2階はパーラータンタン。昔は青森銀行八日町支店でしたが現在はロイネットホテルです。

・東高校入り口：八戸グランドという成人映画がありました。現在は7イレブンになっています。

・吹上ナンブタウン前：ナンブボウルというボウリング場がありました。キャバレーロンドン。今は空き地です。

・大工町角。ここはよこまちストアの発祥の地です。隣は於本病院。現在は介護関係の施設です。

・長横町：ナナオ家具、電巧堂、松竹の地下はビリヤード場で、現在は駐車場。夜の長横町

・十三日町 橋文さんの通り。丸美屋。盛田カバンの前に高校の合格者の発表掲示板がありました。今はそういうことは絶対にやりません。橋文さんは現在はホテルになっています。

三新スポーツでバットを買ったら三振しました。三新さんの前にきみ売りのおばちゃん、戦争で負傷した方が座っていました。

・鷹匠小路（ロー丁）：板橋食堂には思い出があり、中村模型店、石塚模型屋がありました。ロー丁にはむかし牢屋があったのでロー丁。

・六日町（肴町）：ニチイデパートは昭和46年（1971年）にできました。53年前の話です。現在はパチンコ屋さんです。

・六日町交差点の番屋さんは今とほとんど同じです。長崎屋があつて、中央薬局。現在は

マンションになりましたが、番屋さんはほとんど変わっていません。

・若林さんのパチンコ屋。

・六日町：岩徳パルコ。

・三日町：アーケード街がありました。文明堂、伊吉、関重、ネトモ商店、靴のヒガシもありました。大学堂。

・三日町通り：緑屋、マルマツ、クドウキチもあって昭和の行動経済成長時はすごく良かったです。現在は商店がなくなりマニチワになっています。

・お祭り広場：ここにお祭りのときに必ずキリストの布教の方がうるさいように歩いていました。

・三日町交差点：長崎屋デパートは昭和45年（1970年）開店。現在はマンションです。長崎屋を壊してマンションになりました。観覧車もありました。

・三日町：丸光デパートは昭和43年（1968年）に緑屋と同じ日に開店しました、56年前です。現在はさくら野百貨店です。

駆け足になりましたが紹介しました。高度経済成長の八戸の中心街はひじょうに活気が良かったけれど、今はだいたいぶ形を変えてきています。わたしはできるだけ車を使わないで歩くことにしていますが、カメラをもって歩いているとだいたい不審者に見られます。できるだけ歩くようにしています。うちの父も歩いていますので、それは唯一真似できることだと思っています。

紺野会長：松林さんの話を聞いていて、熊本地震の先にいた吹原さんを思い出しました。来週市長が来て、市との災害締結を行い、後半部分は記者会見を行います。わたしが答えられないときには皆様にもお手伝いいただきしたいと思いますので、ぜひご参加をお願いします。

・松本幹事：例会終了後、理事役員会を行います。

出 席 報 告					出席委員会			
第3299回例会（1月17日）			第3297回例会（12月20日）					
出席率		100%	出席率		100%	修正出席率	100%	
総会員数		64名	出席数		64名	メイクアップした人数		名
出席義務会員名	出席免除会員名	欠席数	名	出席義務会員名	出席免除会員名	欠席数	名	

出 席 報 告					出席委員会			
第3300回例会（1月24日）			第3298回例会（1月10日）					
出席率		59.0%	出席率		69.8%	修正出席率	69.8%	
総会員数		64名	出席数		36名	メイクアップした人数		0名
出席義務会員	出席免除会員	欠席数	名	出席義務会員	出席免除会員	欠席数	名	
61名	3名	25名		62名	2名	19名		